

ICT を活用したピアノ実技指導の試み —保育士・教員養成課程におけるオンデマンド型ピアノ実技授業の方法と教材作成—

松井典子*

滋賀短期大学 幼児教育保育学科

Study on Teach Practical Piano Skills Using ICT

Noriko MATSUI

Department of Early Childhood Care and Education, Shiga Junior College

抄録：新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、ピアノ実技授業をオンデマンド型オンライン授業で実施した。2 回生前期開講のピアノ実技科目「音楽Ⅲ」のクラス授業は、童謡弾き歌いの課題曲をコードによる伴奏付けで演奏することを到達目標としている。

本稿では、コロナ禍における「音楽Ⅲ」クラス授業の ICT を活用したオンデマンド型ピアノ実技授業の方法及び教材について報告する。また、授業最終回に実施したオンデマンド型オンライン授業に関するアンケート調査（提出課題）を紹介し、今後の授業方法及び作成した教材の活用方法を検討する。

キーワード：ICT, オンデマンド型, ピアノ実技指導, 教材, 保育士・教員養成

1. はじめに

2020 年度の前期開講科目、「音楽Ⅲ」は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響から急遽オンラインによる授業形態に変更し、実施した。本科目は、童謡の弾き歌いとピアノ演奏技能を修得する授業である。できる限り平時の授業内容を提供できるよう、オンラインによるオンデマンド型の教材配信とリアルタイム型のピアノ実技レッスンを組み合わせ進めた。

オンライン授業に際し、学生の居住地のインターネット環境、鍵盤楽器所有の有無、自宅(下宿)においてピアノの音を出すことの可否等、状況を把握するために環境調査を実施した。調査結果から、履修生 72 名中約 1 割の学生が、自宅(下宿)で音を出すことができない、または、音の出せる場所に Wi-Fi 環境がない等の理由で自宅(下宿)において「音楽Ⅲ」の授業を受講することが困難であると回答した。このため、緊急事態宣言解除後に、本学のピアノ練習室で受講できるよう感染症予防に関する施設利用のルール作りやピアノ練習室周辺の Wi-Fi 環境を整備した。鍵盤楽器所有の有無に関しては、4 名の学生が自宅にピアノを所有しておらず、ポータブルの電子ピアノを短期大学で準備し、

*E-mail: n-matsui@sumire.ac.jp

貸し出しを行った。

本稿では、コロナ禍における「音楽Ⅲ」クラス授業の ICT を活用したオンデマンド型ピアノ実技授業の方法及び教材について報告する。また、授業最終回に実施したオンデマンド型オンライン授業に関するアンケート調査（提出課題）を紹介し、今後の授業方法及び作成した教材の活用方法を検討する。

2. 「音楽Ⅲ」の授業内容及び方法

2.1 平時における授業の概要

「音楽」の授業内容は、1 コマ 90 分授業を 2 グループに分け、前半と後半で 45 分間ずつ、クラス授業とピアノ実技指導を行っている。1 回生では、「音楽Ⅰ」（前期）、「音楽Ⅱ」（後期）を履修している。1 回生のクラス授業の内容は、歌唱（ソルフェージュ）及び基礎的な楽典を 45 分間学ぶ。そしてピアノ実技レッスンは、3 人 1 組による個人レッスンを実施している。

本稿で取り上げる「音楽Ⅲ」の授業は、2 回生開講科目である。授業形態は、「音楽Ⅰ」及び「音楽Ⅱ」と同様である。クラス授業(筆者担当)では、童謡の課題曲をコードによる伴奏付けで弾き歌いすることを授業の到達目標としている。ピアノ個人レッスン(非常勤講師担当)では、ピアノ曲の課題(例：バイエル、ブルグミュラー等)の修得及びクラス授業の課題曲のコード奏による弾き歌いを修得する。

2.2 2020 年度「音楽Ⅲ」オンライン授業の概要

2020 年度のピアノ実技指導は、1 対 1 のリアルタイム型でオンラインツール Google Meet を通じ実施した。リアルタイム型のピアノレッスンでは、学生はもとより教員も初めての試みであったので、回線トラブル等さまざまなことを想定し、即時に対応できるようにクラス授業はオンラインツール Google Classroom を通じ、オンデマンド型で教材を配信した。オンデマンド型で配信することで、ピアノ実技レッスン時には、非常勤講師や学生からの連絡等（回線トラブル等）に随時対応することができた。

3. 教材と課題の提出

クラス授業は、①授業レジュメ、②弾き歌い課題曲の楽譜、③弾き歌い課題曲の動画の 3 種類の教材を Google Classroom に添付し、配信した。

次に、3 種類の教材内容、編集方法、そして課題の内容と課題の提出について述べる。

3.1 授業レジュメ

授業レジュメは、平時の授業内容と同様に、コードの基礎的な知識の解説等を文章と写真を組み合わせてパワーポイントで提示した。主要三和音のコードの解説は、五線譜付きのホワイトボードを用いた。ホワイトボードに音符を表記したものを撮影し、パワーポイントに添付し、文章による解説を

加えた（写真1）。また、練習方法のポイント（写真2）及び鍵盤上の手の形（写真3）は、文字や写真を組み合わせて示した。授業レジュメは、第7回以降編集ソフトを活用した。詳細については、3.3.1で述べる。

なお、パワーポイントによる授業レジュメは、動画で再度解説を行うため、音声無しで作成した。

写真1 授業レジュメ（コードについて）

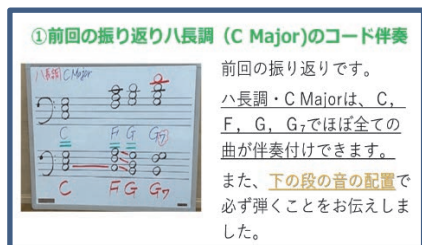


写真2 授業レジュメ（練習方法）

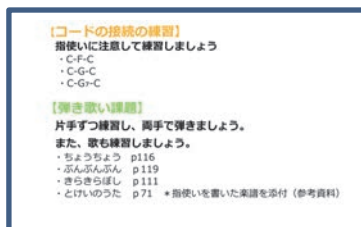


写真3 鍵盤上の手の形



3.2 弾き歌い課題曲の楽譜

楽譜上で授業レジュメと動画内容を確認しながら練習できるよう、楽譜に動画録画で解説した内容、コードの運指及び一般的な右手の運指を書き込み PDF にし、添付した。運指については、平時の授業においても学生に丁寧に指導している。平時の授業においても、コード奏の修得において正しい運指でスムーズなコード接続を行うことを目指しているが、旋律を担う右手が安定して弾けることも重視している。演奏中ミスタッチをしたり止まったりする要因の一つに、運指に原因がある場合が多い。このため、右手の運指を定着させることの重要性を強調し、指導している。

コード奏修得の観点から、楽譜には、視覚的にコード接続のパターンが理解できるよう、コードネーム別にマーカーで色分けし、示した。

上述の解説内容は、動画教材を視聴する前に、自分の楽譜に転記することを毎回の課題の1つとした。

3.3 弾き歌い課題曲の動画

動画においても、授業レジュメの内容を確認するとともに、コードによる伴奏付けの理論的な理解を深められるようピアノを用い、演奏しながら口頭で解説した。本科目は、ピアノ初級者、中級者、上級者とレベル別に指導を行っている。課題曲は共通しているが、レベルによって修得する曲数が異なる。平時は、クラス授業もレベルに分かれ指導している。今回作成した動画内容は、レベル別では

なく、全ての履修学生を対象とした。

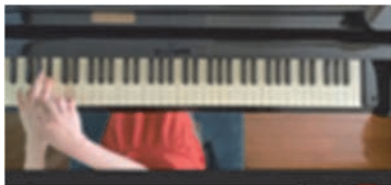
動画内容は、「コード奏について」、「課題曲について」、「練習方法」と大きく3つに分類し動画録画を作成した。さらに、それぞれの動画内容を10分間程度の長さに編集し、YouTubeに限定公開でアップロードした。

「コード奏について」では、主要三和音のコードネームの解説、弾き歌い課題曲に使用されるコードについて、コード接続の特徴、コード接続時の運指、スムーズな指移動の方法について具体的に鍵盤上で指し示しながら口頭とピアノ演奏で解説した（写真4）。

「課題曲について」は、課題曲の技術面及び音楽的な表現を修得できるよう練習方法を紹介した。リズムが複雑な課題曲に関しては、手拍子やリズム唱でリズムを正確に捉える練習方法を示した。課題曲の難易度によって、練習のポイントを示した。また、コード奏の工夫として、曲想に合う伴奏形（分散型等）の例を提示した。コード奏は、リズムあそび（リトミック）にも応用できるため、コード奏を用いた即興を紹介し、実践例も示した。

「練習方法」では、動画を視聴するだけでなく、動画とともに練習を行うことを目的とした。動画内容は、まず一通り両手で弾き歌い課題曲を弾き、次に右手（旋律）と左手（コード）を片手ずつ弾き、最後に再び両手で、弾き歌いをしながら課題曲を弾くといった構成である。動画録画に合わせて右手の練習、もしくは左手の練習、歌唱練習等、さまざまな練習方法を学生に提示した。また、学生の習熟度や課題曲の難易度に合わせ、各自が練習方法を選択し、練習を進めるよう促した。

写真4 コード接続時の指移動の解説

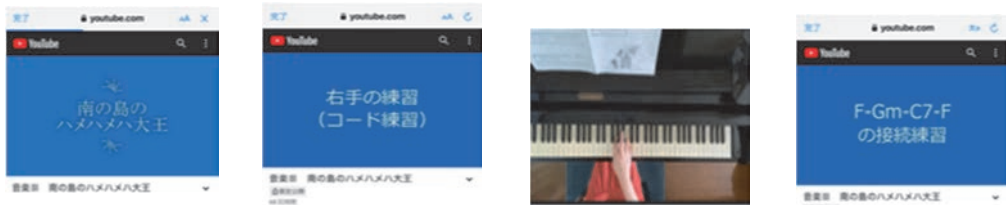


3.3.1 「フォト」を活用した教材作成について

3.1で述べたように、第7回以降は、パワーポイントによる授業レジュメと弾き歌い課題の動画は、Windows10 標準ソフトウェアの「フォト」を活用し、1つの教材に統合した。「フォト」は、動画や写真の他、文字（字幕やテキスト）も加えることができ、非常に便利な編集ソフトである。パワーポイントによる授業レジュメの内容は、「フォト」のテキスト機能と字幕で作成した（写真5）。

パワーポイントによる授業レジュメを動画教材に取り入れたことにより、学生が閲覧する添付ファイルが動画教材と楽譜のみとなり、以前よりスムーズな流れで授業内容を提供することが可能となった。

写真5 「フォト」を活用した動画教材



3.4 課題内容と成果の提出

クラス授業では、Google Classroom の「質問」機能を通じ、毎回課題の提出を求めた。内容は、弾き歌いの課題曲により異なるが、基本的にコードの理解度、教材をもとに練習した感想、課題曲の練習の進み具合、授業内容に対する質問を学生に問い、双方向のコミュニケーションがとれるよう努めた。

平時のクラス授業では、ピアノ技能の修得だけでなく、弾き歌い課題曲の歌詞の意味や作曲された時代背景等、将来保育実践において役立つ知識を総合的に学修できるように、学生に質問しながら進めている。オンライン授業では、この内容を「調べ学習」とし、提出課題に取り入れた。

授業終盤には、弾き歌い課題の習熟度及び練習成果を確認するために、課題曲から1曲選曲し、ピアノ演奏することを提出課題とした。提出課題の方法は、一部の授業が対面授業を開始していたため、短期大学において対面で演奏、もしくは、演奏を動画録画し提出する方法から選択させた。

動画録画の提出方法は、スマートフォンで受講していた学生が大多数のため、通信容量を考慮し、Google ドライブに「音楽Ⅲクラス授業」の共有ファイルの URL を作成し通知した。また、動画提出の方法がスムーズに行えるよう「提出マニュアル」を Word で作成し、提示した（マニュアルの抜粋：写真6, 7）。学生は、動画録画の提出方法に従って、URL にアクセスし、動画録画のファイルをアップロードする。その後提出された動画録画に対し、Google Classroom の「限定コメント」機能を通じ、演奏に対するフィードバックを行った。

写真6 動画録画の提出方法①



写真7 動画録画の提出方法②



4. アンケート調査の内容及び結果の考察

4.1 「音楽Ⅲ」クラス授業の提出課題による回答

第 15 回に音楽Ⅲの履修生 72 名に「音楽Ⅲクラス授業」に関するアンケート調査を提出課題とし、実施した。提出方法は、通常通り Google Classroom の「質問」機能を通じて行った。

提出期限内の回答者数は、68 名である。

質問項目は、以下の通りである。全て自由記述による回答を求めた。

【質問】

- ①今学期修得した童謡弾き歌い曲数を教えてください。
- ②コードによる伴奏付けを修得した感想を書いてください。
- ③「音楽Ⅲ」クラス授業（オンデマンド型：教材と動画配信）を受講した感想を書いてください。
- ④ピアノレッスン（リアルタイム型：ピアノ実技）を受講した感想を書いてください。
- ⑤「音楽Ⅲ」の授業全体について、自由に感想を書いてください。

本稿では、③「音楽Ⅲ」クラス授業（オンデマンド型：教材と動画配信）を受講した感想の回答を紹介する。特に、「動画（YouTube）」、「楽譜」、「練習」、「技術面及び音楽的表現」、「授業」に関する記述を抽出した。以下に列挙する（回答の下線は、筆者による）。

【回答】

- ・動画配信はやはり手軽で、落ち着いて受講できると感じました。その場だけでなく、動画として形に残っているので復習し直すのもかなり手軽でした。
- ・ひとつひとつの曲に対して、動画を見ながら時間をかけて取り組むことができた。
- ・対面授業のように直接教わることは出来ませんでしたが、自分のペースで動画を見返したりすることができた点は良かったです。
- ・分からない部分があれば動画を巻き戻して再度確認するなど、自分のペースで授業を進めることができました。動画配信ならではの良さもあったように思います。解説もとても分かりやすかったです。
- ・動画で理解できるか不安だったが、動画が丁寧でわかりやすかったので良かった。
- ・対面ではなく少し大変な部分もありましたが、上からのピアノの手元が映った動画がとても分かりやすかったです。新しい形の授業で楽しかったです！
- ・YouTube にアップされる動画がだんだん見やすくなり、分からなければ何回でも巻き戻して練習できるので理解が深まりやすかったです。
- ・YouTube でコードの解説、弾き方、通し丁寧に教えてくださりとても分かりやすかったです。
- ・動画のようにゆっくりコツコツ練習する方法で練習していくとだいぶ出来るようになっていき、凄

く嬉しかったです。コツコツ練習することの大切さを改めて学びました。知っている曲がたくさんで頑張ろう！という気持ちになりました。

- ・ 楽譜や動画を見て練習するのは少し手間がかかり大変でした。
- ・ 動画と楽譜でとてもわかりやすかったです。
- ・ 動画と資料を見ながらなので、自宅でも分かりやすかったです。
- ・ 動画がわかりやすく、自分の弾き歌いに活かすことができました。
- ・ 動画配信だったけど、普通の授業のように受けることができたので分かりやすかったです。
- ・ 動画配信なので授業の実感が湧きにくく緊張感の度合いが違った。
- ・ 教材と動画を両方で見ることによりわかりやすいと感じた。
- ・ 教材でわからなかったところを動画の方で確認することができたのでよかったです。また、ひとつひとつの曲に対して、動画を見ながら時間をかけて取り組むことができました。
- ・ 文字だけでなく実際に内容に関連した曲の動画があったので理解しやすかったです。
- ・ 初めは、音楽のオンラインはどのようにやっていくのか不安でしたが、分かりやすくコードの弾き方や楽譜の読み方を配信していただいたので、上手く練習することができました。
- ・ 指番号が書いてあり凄く助かりました。
- ・ 弾き方がのってあったので、一緒に練習できてよかった。
- ・ 先生の弾き方を真似して弾くことができた。
- ・ メロディーと伴奏のバランスや伴奏の中でも出すべき音と控える音の関係についても YouTube だと聞き分けることができました。また、リトミックあそびに使えるピアノを教えてくださいましたのも良かったです。
- ・ 動画で指の使い方やアレンジの仕方などをあげてくださったので分かりやすかったです。
- ・ 去年よりレベルアップしたものを弾けたり、実際に保育園で使えるような曲を多くできたからよかった。
- ・ やっぱり対面で授業したかったです。
- ・ 操作の仕方がわからないことがありましたが、やりやすいと思います。

4.2 調査結果の考察

アンケート調査の結果から、特に動画教材の内容に関して、「わかりやすかった」と回答した学生が多数あった。ICT 機器を活用し、ほぼ平時と変わらない授業内容を提示できたことは、成果として挙げられる。また、オンデマンド型動画配信の利点である「何度も繰り返し視聴できる」こと、「自分のペース」で「時間をかけて」練習に取り組んでいたことが記述から分かった。緊急事態宣言中はもとより、宣言解除後もオンライン授業を継続する科目がほとんどであったので、自宅で練習する時間が確保できたこともあり、じっくりとピアノの練習に向きあう時間ができたのではないかと推察する。

動画教材と楽譜については、これら2つを添付配信することで、学生の理解度が上がったことが記述内容から判明した。アンケート調査では、具体的に「運指」や「弾き方」を参考に、練習できたと回答している。平時の「音楽Ⅲ」の授業では、コードの運指と旋律を担う右手の運指を定着させることで安定した弾き歌いが実現できることを解説していた。オンラインの授業においてもこのことを強調し、学生に伝えることができたのではと考える。

授業後半に取り入れた「フォト」を活用した教材は、学生の記述にも示されたとおり、練習を効率よく進めることができた要因と考えられる。また、「動画と一緒に練習できた」と回答した学生もおり、今後対面授業が可能となった場合においても、今回作成した教材が練習の補助教材として活用できるかを検証していきたい。

技術面及び音楽表現に関する回答については、動画からさまざまな視点で学修していた学生を知ることができた。動画から伴奏法を探究していた学生もいた。また、「音楽Ⅲ」の課題は、将来保育・教育現場で使用される弾き歌い曲を多数挙げていたため、就職した際の弾き歌いを想像しながら練習に取り組んでいた様子も窺える。

一方、下線部のように慣れないオンライン授業で、通信機器を活用することに不安や不自由さを感じたり、配信される動画を一人で学修することに対し、違和感を覚えたことを記述する学生もいた。本来ならば、クラス授業では、保育・教育現場の弾き歌いを想定した実践的なピアノ指導並びに歌唱指導を行う。例年「音楽Ⅲ」の履修時期は、就職試験や実習と重なるため、人前での演奏に慣れることも授業のねらいとしていた。このことを考えると、保育実践に関わる科目については、感染症予防対策を徹底し、対面での授業と今回作成したようなICTを活用した教材を適宜組み合わせ、授業運営していくことが必要不可欠であると考えられる。

5. おわりに

本稿では、オンデマンド型オンライン授業によるピアノ実技指導の授業方法及び教材作成について述べた。いわば、走りながら考え、試行錯誤を重ねながら進めてきた。本学では近年、ピアノ初学者で入学する学生が増加傾向にある。授業を計画する中で重要視していたことは、できる限り学生の不安感を取り除き、オンラインでも分かりやすく、学び続けることができる授業内容を提供することだ。「音楽Ⅲ」は2回生開講科目であるため、既に1年間基礎的なピアノ奏法を修得していたことや学生が音楽の実技科目の授業形態を把握していたことで、比較的スムーズに授業を実施することができた。

今回のオンライン授業導入によって新しいコミュニケーションの方法を体験し、さまざまな発見をもたらした。新しい授業方法を試みた結果、得られたことも沢山ある。ICT機器を活用しながら教材作成をする中で、授業ツールの1つになり得ることに気づくことができた。

一方、改めて対面（ダイレクト）でしか得られないことが多いことも実感した。これまでのクラス授業では、他者の音楽表現から学び、仲間と切磋琢磨しながら演奏技能の修得を目指したり、実際の

保育現場を想定し弾き歌いを実践したり、「協働的な学び」を大切にしてきた。そのことを振り返るとき、これまで当たり前のように、同じ空間で音を感じ、共有していたことが、どんなにありがたいことだったのかを思い知らされている。

まだ解明されていないことが多い未知のウイルスである。今後は、ウイルスとの共存を考えた新しい授業方法を模索し、今後の授業に備えていきたい。

謝辞

ピアノ非常勤講師の先生方には、オンライン授業において多大なご協力、ご支援をいただいた。

本学ビジネスコミュニケーション学科小山内幸治教授には、本科目の授業運営にあたりピアノ練習室のWi-Fi環境の整備や教材に関わるさまざまなICTツールについてご教示いただいた。沖山圭子教授には、ピアノ練習室使用にあたり、感染症予防の対策についてご教示いただいた。学務課の皆さまには、授業が円滑に進められるようサポートをしていただいた。心より御礼申し上げます。

(本稿は、京都音楽家クラブ会報8.9第732号の小論文の内容をもとに加筆し、執筆したものである。)

文献

- 1) 松井典子(2020), 遠隔授業への挑戦—保育者養成校におけるピアノ実技指導—, 京都音楽家クラブ会報 8.9 第732号, 第65巻第8号
- 2) 松井典子, 前田則子(2019), ピアノ初学者のコード奏における運指の傾向—コード予備練習(サブ教材)の提言—, 滋賀短期学研究紀要, 第44号, pp.59-72
- 3) 松井典子, 前田則子(2020), ピアノ初学者のコード奏指導の実践—コード予備練習課題 No.1 の実践報告と予備練習課題 No.2 の提案—, 滋賀短期大学研究紀要, 第45号, pp.161-178